

報道発表資料

令和7年12月17日
独立行政法人国民生活センター

**入浴・沐浴に伴う乳児の落下事故に注意！
－浴槽の蓋や洗濯機の上には寝かせないで－**

1. 目的

子育てをしている家庭において、子どもとの入浴^(注1) や沐浴^(注2) は日常生活の一部であり、身体を清潔にするほか、親子のコミュニケーションタイムの1つでもあります。

医療機関ネットワーク^(注3) には、家庭内における入浴・沐浴に伴う乳児の落下事故^(注4) の情報が2020年度から2025年度までの約5年半の間で、78件寄せられています^(注5)。このうち、浴槽の蓋や洗濯機などから落下して頭部を受傷したという事故が発生しており、生後間もない乳児が入院するケースもみられます（図1）。

そこで、医療機関ネットワークに寄せられた事故情報等を取りまとめ、消費者へ注意喚起することとしました。

（注1）子どもと保護者などが浴室で同じ浴槽に入り、身体を清潔にすること。

（注2）ベビーパスなどを使い、乳児のみの身体を清潔にすること。

（注3）消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診した事故情報を収集するもので、2010年12月から運用を開始しました。

（注4）本資料における「入浴・沐浴に伴う」とは、入浴・沐浴の準備から片付けまでを示します。

（注5）2020年4月1日から2025年10月31日までの伝送分。件数は本公表のために特別に精査したものです。

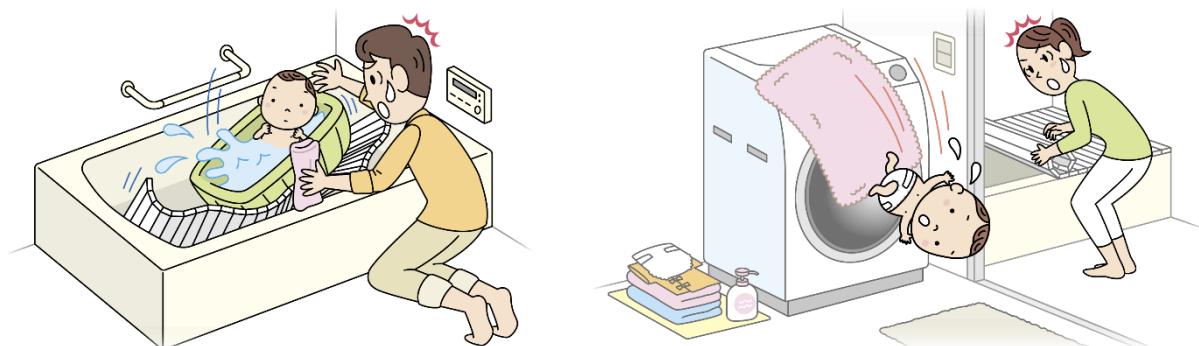


図1. 入浴・沐浴に伴う乳児の落下事故の様子（イメージ）

2. 実施期間

テスト期間：2025年7月～11月

3. 医療機関ネットワークに寄せられた事故情報

(1) 事故の概要

浴槽の蓋や洗濯機から落下し、頭部を受傷する事故が発生しています

医療機関ネットワークに寄せられている入浴・沐浴に伴う乳児の落下事故は、約5年半の間で78件寄せられており、浴槽の蓋や洗濯機から落下するケースが多くみられたほか、大人が抱っこしていて落下したケースもありました（図2）。また、危害部位は頭部が64件と全体の約8割を占めていました（図3）。頭部が大きい子どもは、頭から落下するため頭部を受傷することが多く、落下高さによっては重篤なけがを負う危険性があります。

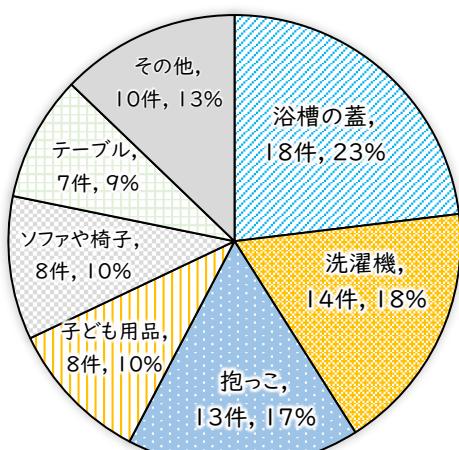


図2. 落下事故の内容 (n=78)

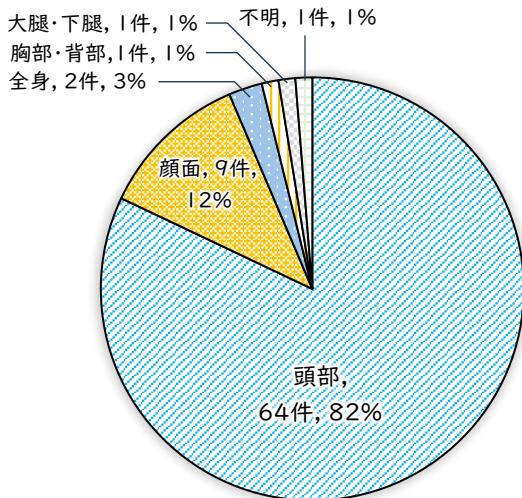


図3. 危害部位 (n=78)

重篤なけがである骨折や頭蓋内損傷を負った事故の約4割は、洗濯機から落下したものでした

危害の内容では、骨折や頭蓋内損傷を負った事例は12件でしたが、そのうちの約4割（5件）は洗濯機から落下したものでした（図4、図5）。

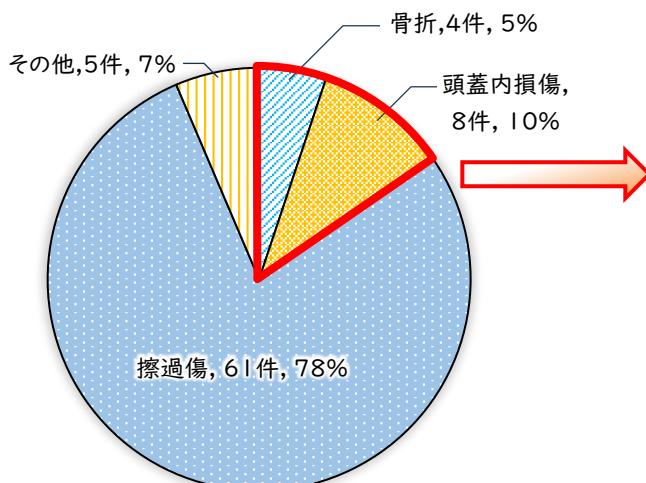


図4. 危害の内容 (n=78)

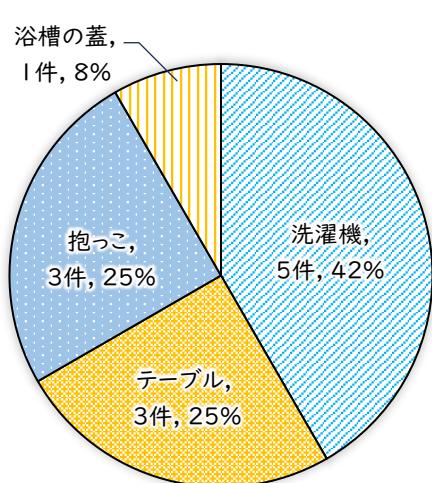


図5. 骨折及び頭蓋内損傷発生場所 (n=12)

洗濯機からの落下事故は、月齢6カ月以下に集中していました

落下した乳児の月齢は、約8割（64件）が月齢6カ月以下でした（図6）。中でも寝返りが始まる時期である月齢4～5カ月での事故がやや多いほか、比較的動きの少ない月齢3カ月以下の乳児でも落下事故が起きていました。

一方、洗濯機から落下した乳児の月齢は全てが6カ月以下でした（図7）。これは月齢6カ月を超えると、身長が大きくなり洗濯機の上に収まらないほか、ひとりすわりが始まることなどが一因と推察されました^(注6)。また、浴槽の蓋から落下した乳児の月齢は1カ月がやや多くみられました（図8）。事例の中には、浴槽の蓋にベビーバスを置いて沐浴をしていた際の事故のほかに、親と一緒に入浴する際、浴槽の蓋に直接寝かせていて落下した事故など、複数の状況がみられました。

（注6）「令和5年乳幼児身体発育調査」より こども家庭庁（2024年12月25日）

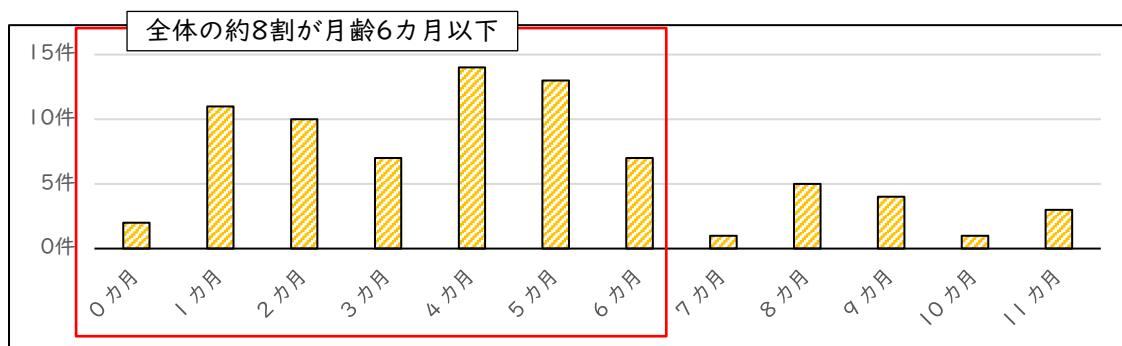


図6. 落下した乳児の月齢 (n=78)

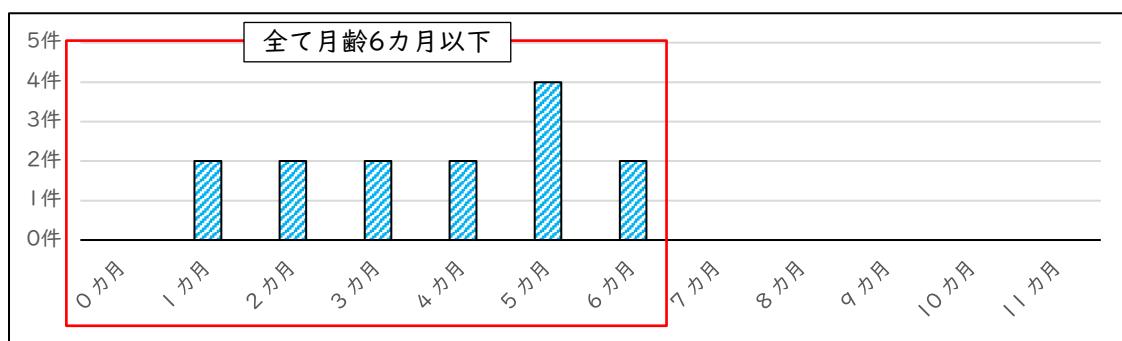


図7. 洗濯機から落ちた乳児の月齢 (n=14)

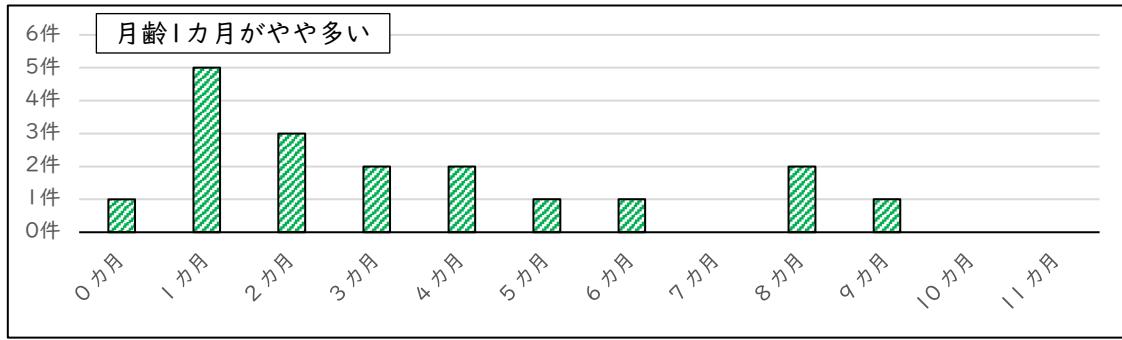


図8. 浴槽の蓋から落ちた乳児の月齢 (n=18)

(2) 事故発生のタイミング

入浴・沐浴前後の事故が約6割あり、入浴・沐浴中に比べて多く発生していました

事故発生のタイミングは、準備や片付け、着替えなどの入浴・沐浴前後が約6割（46件）であり、入浴・沐浴中（約3割（25件））に比べて多く発生していました（図9）。

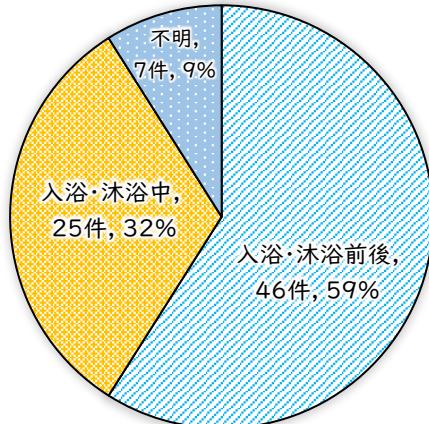


図9. 事故発生のタイミング (n=78)

1) 入浴・沐浴前後の事故

準備などで親が乳児から目を離した際の事故が多く、中でも洗濯機から落下する事故が多くみられました

入浴・沐浴前後の事故（46件）のうち、事故の瞬間を目撃したものは約2割（8件）に留まり、約8割（38件）は準備や片付けなどで乳児から目を離した際の事故でした（図10）。また、その際に寝かせていた場所は洗濯機が最も多く、浴槽の蓋を開けるなど短時間目を離したときに事故に遭った事例もみられました（図11）。

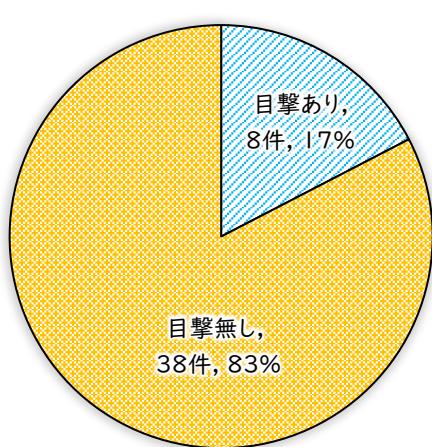


図10. 目撃の有無 (n=46)

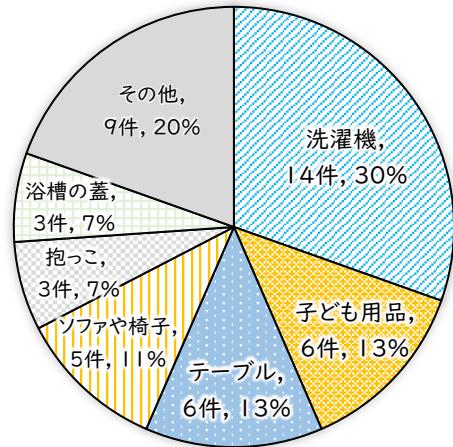


図11. 寝かせていた場所 (n=46)

※小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%ではありません。

2) 入浴・沐浴中の事故

約9割は事故の瞬間を目撃しており、それらは浴槽の蓋を利用したり抱っこしていた際に発生していました

入浴・沐浴中の事故（25件）については、入浴・沐浴前後とは反対に、事故の瞬間を目撃したものが約9割（22件）でした（図12）。その内容は、浴槽の蓋に置いたベビーバスで沐浴していた際の事故や抱っこして乳児の身体を洗っていた際の事故などでした（図13）。

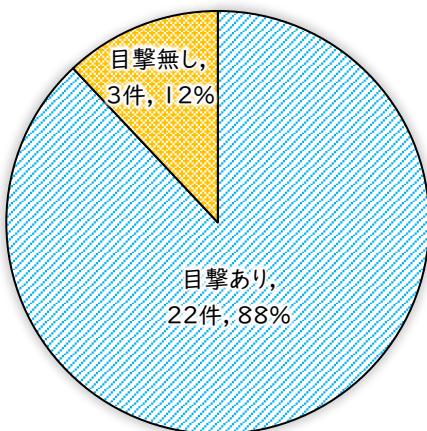


図12. 目撃の有無 (n=25)

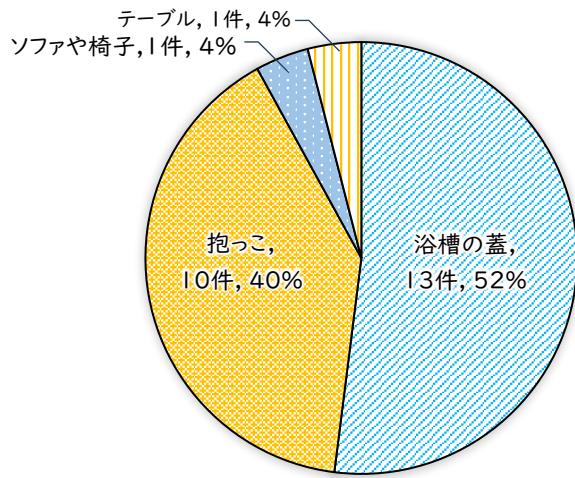


図13. 寝かせていた場所 (n=25)

（3）主な事故事例

1) 入浴・沐浴前後の事故事例（洗濯機からの落下）

【事例1】

保護者が乳児を入浴させるため、洗濯機の上に寝かせて脱衣させていた。一瞬目を離した間に床へ落下した。

（事故発生年月：2025年2月、0歳5ヶ月、女児）

【事例2】

保護者が乳児を入浴させるため脱衣所へ向かった。洗濯機の上に子ども用のマットが置いてあった。普段は床に置いて使用しているが、たまたま洗濯機の上に置いてあったので、そのまま乳児を寝かせてしまった。浴槽の蓋を開けるために乳児から目を離し、後ろを向いたときに乳児が床に落下した。両側前頭葉くも膜下出血により約2週間入院。

（事故発生年月：2024年9月、0歳3ヶ月、女児）

【事例3】

乳児を洗濯機の上に寝かせ、浴室のシャワーを出すためにその場を離れたところ、ドンと音がした。保護者が振り返ると乳児はうつ伏せで床に落ちていた。洗濯機の上にタオルを敷き、頭が洗濯機の奥になるように仰向けで寝かせていた。外傷性くも膜下出血により入院。

（事故発生年月：2024年3月、0歳1ヶ月、男児）

2) 入浴・沐浴中の事故事例（浴槽の蓋からの落下）

【事例4】

浴槽の蓋の上にベビーバスを乗せ、乳児の沐浴を行っていた。蓋がずれてベビーバスごと乳児が浴槽に落ちた。

(事故発生年月：2025年4月、0歳1ヶ月、男児)

【事例5】

風呂場の浴槽の蓋の上にベビーバスを置き、乳児の沐浴中だった。保護者が乳児から手を離して近くの物を取ろうとしたときに足をひっかけてしまい、蓋がずれて乳児とベビーバスが浴槽の湯の中に落ちた。

(事故発生年月：2023年11月、0歳2ヶ月、男児)

【事例6】

乳児を風呂場の浴槽の蓋の上に寝かせていた。保護者が目を離した際に寝返りをして落下した。

(事故発生年月：2023年6月、0歳8ヶ月、男児)

【事例7】

乳児を浴槽の蓋の上に寝かせていた。保護者が髪を洗う際に目を離したところ、乳児が動き落下した。頭頂骨骨折、急性硬膜外血腫により約1週間入院。

(事故発生年月：2020年8月、0歳4ヶ月、男児)

4. 消費者へのアンケート調査

現在、乳児の育児をしている、または過去3年以内に乳児の育児をしていた親の中で、入浴・沐浴に伴い乳児が落下した（しそうになった）経験がある515人に対して、アンケート調査を行いました（詳細は、「10. 消費者へのアンケート調査の集計結果」参照）。

（1）寝かせていた場所について

バウンサーなどの子ども用品に次いで、洗濯機や浴槽の蓋が多くみられました

落下した（しそうになった）際、その乳児を寝かせていた場所を聞いたところ、バウンサーやベビーベッドなどの子ども用品が約3割で最も多く、次いで洗濯機や浴槽の蓋でした（図14）。

また、その場所に乳児を寝かせていた理由を聞いたところ、「着替えをさせやすいため」や「浴室や脱衣所が狭いため」など、複数の理由が挙げされました（図15）。

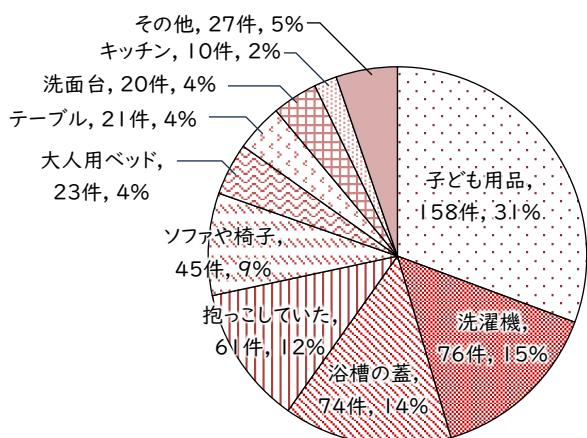


図14. 寝かせていた場所 (n=515)

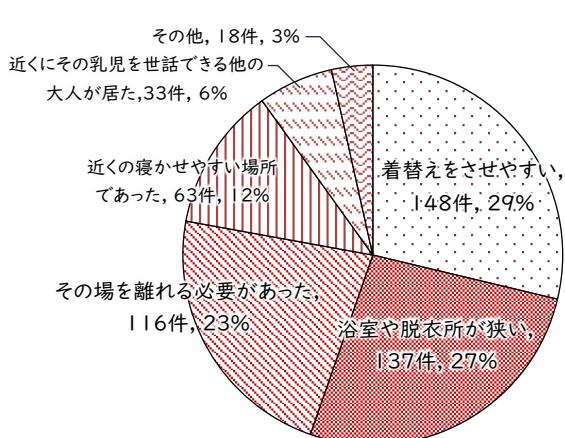


図15. 寝かせていた理由 (n=515)

4割以上の方が、落下した（しそうになった）場所にほぼ毎回乳児を寝かせていました

入浴・沐浴の際に、落下した（しそうになった）場所に乳児を寝かせることは日常的にあつたかを聞いたところ、「ほぼ毎回寝かせていた」と回答した人が4割以上いました（図16）。また、「たまに寝かせていた（週1回以上）」と回答した人も合わせると、7割以上の人が週1回以上の頻度でその場所に乳児を寝かせており、日常的な行動の中に事故の危険性があると考えられました。

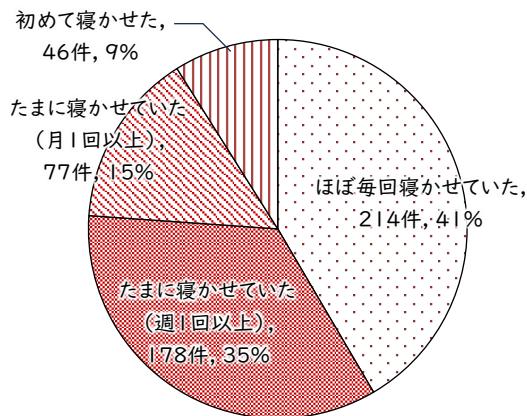


図16. 寝かせていた頻度 (n=515)

(2) 落下した（しそうになった）時の周囲の状況について

1人で複数人の子どもの世話をしている際に落下した（しそうになった）経験をしている人が多い傾向がみられました

落下した（しそうになった）際、乳児の入浴・沐浴に対応していた大人は何人いたかを聞いたところ、約7割の人が「1人」と回答しました（図17）。また、1人で対応していた人の中で、近くにその乳児以外に世話をする必要のある子ども（兄姉など）がいたかを聞いたところ、7割以上の人人が「近くにいた」と回答しました（図18）。このことから、1人で複数人の子どもの世話をしている際にこれらの経験をしている人が多い傾向がみられました。

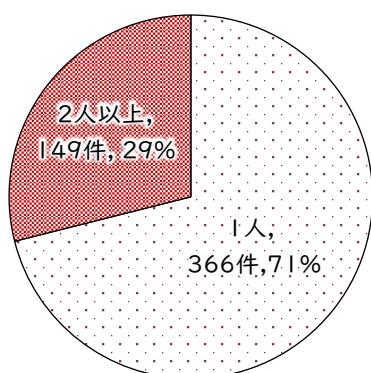


図17. 対応していた人数 (n=515)

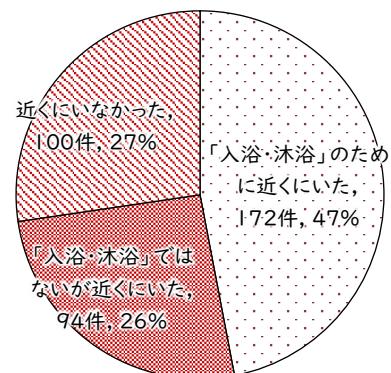


図18. 他の子どもの有無 (n=366)

(3) 落下した（しそうになった）経験がない人について

落下した（しそうになった）経験がない人は、落下の危険性がある場所に寝かせていない傾向がみられました

今回のアンケート調査の対象者を抽出するにあたり、事前に行った調査では、落下した（しそうになった）経験がある人が515人であったのに対し、それらの経験がない人は7,276人でした。この7,276人に、入浴・沐浴の際、一時的に乳児を寝かせておくときに最も多い場所を聞いたところ、「床」及び「子ども用品」が全体の約8割を占めており、落下の危険性がない床に寝かせることが事故防止策の一つと考えられました（図19）。

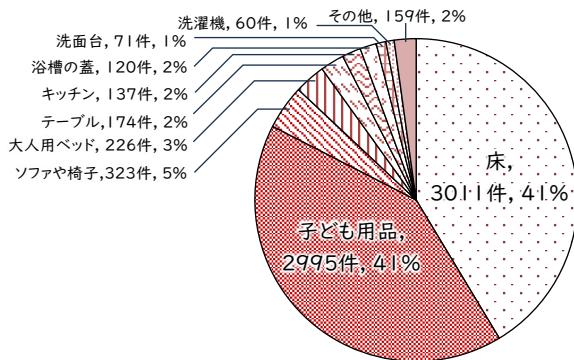


図19. 一時的に乳児を寝かせている場所 (n=7,276)

5. 事故の再現及び構造等

(1) 洗濯機からの落下

洗濯機のタイプに限らず落下のリスクがあるほか、重篤なけがを負う危険性が高いと考えられました

医療機関ネットワークに寄せられた入浴・沐浴に伴う乳児の落下事故のうち、中等症以上の重篤なけがを負った事故の約4割は洗濯機から落ちたものでした。洗濯機の中でも、ドラム式洗濯機の天面は平坦なものが多く、一見すると安定感があるように見えますが、天面の上で乳児が寝返りをすると落下する危険性があります（図20、写真1）。一方、縦型洗濯機は天面が前方に傾斜しており、その角度は5～15°程度のものが多い傾向がみられます（図21）。そのため、天面に乳児を寝かせると、寝返りをしなくとも手足の動きなどにより滑り落ちる危険性があります（写真2）。どちらのタイプも高さは100cm前後であり、その高さから乳児が落下すると頭蓋骨の骨折など中程度の頭部損傷が生じる可能性が高くなると考えられます^{（注7）}。

（注7）頭部への衝撃と損傷リスクの関係を分析、検討する評価基準(HIC)より。詳細は「9. 参考資料」参照。

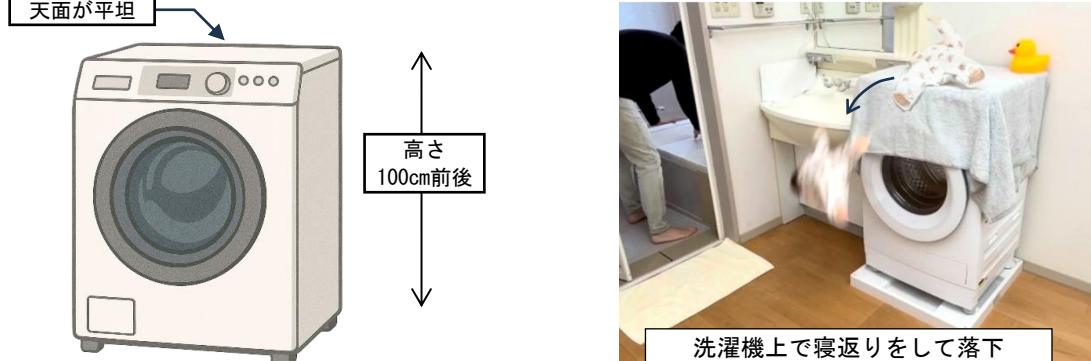


図20. ドラム式洗濯機の一例

写真1. ドラム式洗濯機から落下する様子（イメージ）

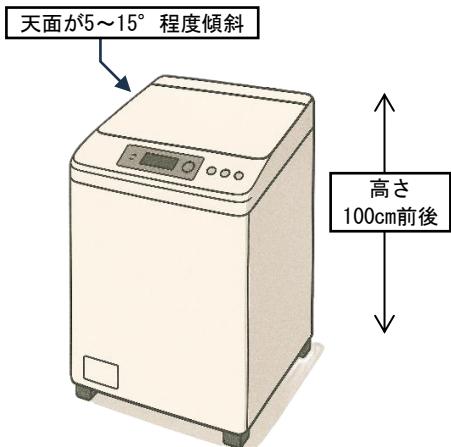


図21. 縦型洗濯機の一例



写真2. 縦型洗濯機から落下する様子（イメージ）

(2) 浴槽の蓋からの落下

浴槽の蓋には、「手をついたり、乗ったりしない」旨の表示がみられました

浴槽の蓋については、家庭用品品質表示法にて定められた表示が求められているほか、一般財団法人製品安全協会が定めている「プラスチック浴そうふたのSG基準(CPSA0017)」にて、種類や強度、表示等について規定されています。SG基準では「ふたがずれたり、たわんだりして浴そう内に転落することがあるので、手をついたり、乗ったり、座ったりしないこと。」や、「ふたがずれて、隙間が開くと、乳幼児や高齢者が転落することがあるので、特に注意すること。」のほか、「ベビーバスをふたの上で使用しないでください。転落する恐れがあります。」といった表示をすることが求められています。

実際に、事故事例を元に浴槽の蓋の上に湯を入れたベビーバスを置き、そのベビーバスを動かしたところ、浴槽の蓋がずれてベビーバスとともに落下するようになりました(写真3)。また、月齢が上がり、浴槽の蓋の上で寝返りなどをした際には、洗濯機と同様に落下する危険性がありました。



写真3. 浴槽の蓋から落下する様子（イメージ）

6. 消費者へのアドバイス

(1) 乳児を洗濯機の上に寝かせることは、絶対にやめましょう

医療機関ネットワークに寄せられた事故情報では、入浴・沐浴の際に乳児が浴槽の蓋や洗濯機から落下するケースが多くみられ、全体の約8割は月齢6ヶ月以下でした。特に洗濯機から落下した場合、落下高さが100cm前後であることから、骨折や頭蓋内損傷など重篤なけがを負う危険性があります。乳児を洗濯機の上に寝かせることは、絶対にやめましょう。

(2) 乳児を寝かせる必要がある場合は、浴槽の蓋など落下する危険性がある場所ではなく、床などの安全な場所を選びましょう

消費者へのアンケート調査の結果では、子ども用品や洗濯機、浴槽の蓋のほか、ソファや椅子、大人用ベッドやテーブルなどさまざまなところから落下した（しそうになった）という状況がみられました。また、1人で複数人の子どもの世話をしている際にこれらの経験をしている人が多い傾向がみられました。

一方、これらの経験がない人の多くは、乳児を床に寝かせていました。乳児を寝かせる必要がある場合は、浴槽の蓋など落下する危険性がある場所ではなく、床などの安全な場所を選ぶようにしましょう。特に、浴槽の蓋から湯の入った浴槽に落下した場合は、外傷を負うだけでなく、溺水の危険性もあります。

(3) バウンサーなどの子ども用品を使用する際は、取扱説明書に従い正しく使用しましょう

消費者へのアンケート調査の結果では、落下した（しそうになった）際に乳児を寝かせていた場所の約3割はバウンサーなどの子ども用品でした。医療機関ネットワークにおいても、バウンサーなどの子ども用品から落下した事例は一定数あり、そのほとんどが「ベルトを締めていなかった」など誤った使用によるものでした。入浴・沐浴の際に限らず、バウンサーなどの子ども用品を使用する際は、取扱説明書に従い正しく使用しましょう。

7. 業界・事業者への要望

入浴・沐浴に伴い乳児が洗濯機から落下し、頭蓋内損傷等の重篤なけがを負う事故が発生しています。洗濯機の上には乳児を寝かせないことについて、消費者が理解しやすい表示等を行うとともに、周知啓発を行うよう要望します

入浴・沐浴に伴う乳児の落下事故が発生しています。落下により骨折や頭蓋内損傷を負った事故の内、約4割は洗濯機から落下したものでした。洗濯機からの落下事故を未然に防止するため、乳児を洗濯機の上に寝かせないことについて、消費者が理解しやすい表示等を行うとともに、周知啓発を行うよう要望します。

8. 行政への要望

入浴・沐浴に伴い乳児が落下する事故が発生しています。入浴・沐浴の際に乳児を落下する危険性のある場所に寝かせないことについて、消費者への周知啓発を行うよう要望します

入浴・沐浴に伴う乳児の落下事故が発生しています。中には洗濯機から落下したことにより骨折や頭蓋内損傷など重篤なけがを負ったものもありました。乳児の落下事故を未然に防止するため、入浴・沐浴の際に乳児を落下する危険性のある場所に寝かせないことについて、引き続き消費者へ周知啓発を行うよう要望します。

○要望先

こども家庭庁	(法人番号 7000012010039)
一般財団法人家電製品協会	(法人番号 5010005018544)
一般社団法人日本電機工業会	(法人番号 8010005016727)

○情報提供先

消費者庁	(法人番号 5000012010024)
内閣府 消費者委員会	(法人番号 2000012010019)
経済産業省	(法人番号 4000012090001)
公益社団法人日本産婦人科医会	(法人番号 5011105004814)
公益社団法人日本小児科学会	(法人番号 5010005018346)
公益社団法人日本小児保健協会	(法人番号 5010005018940)
公益社団法人日本助産師会	(法人番号 9010505001599)
一般財団法人製品安全協会	(法人番号 1010505002118)
一般社団法人日本産後ケア協会	(法人番号 7010805002035)
一般社団法人大手家電流通協会	(法人番号 3010005035863)
特定非営利活動法人Safe Kids Japan	(法人番号 5010905002878)
オンラインマーケットプレイス協議会	(法人番号なし)

本件問い合わせ先

商品テスト部 : 042-758-3165

9. 参考資料 (注8)

頭部傷害リスクの評価基準 Head Injury Criterion (HIC)

頭部への衝撃と損傷リスクの関係を分析、検討する評価基準にHIC^(注9)があります。HIC値は大きいほど頭部への衝撃が大きく、増加に伴い、損傷が発生する可能性も高くなります(図22)。HIC値が1,000に達すると、致命的な頭部損傷が生じる確率が0%ではなくなり、中程度の頭部損傷（頭蓋骨の骨折や、意識喪失を伴う顔の骨折や深い切り傷など）が90%程度の確率で生じるとされています。国立研究開発法人産業技術総合研究所で実施した子どもの落下・転倒事故の分析では、1歳児が床と水平な状態（寝かせた状態）で落下したと想定してシミュレーションした場合の落下高さ及び落下したときの床材、HIC値の関係が算出されています（図23）。洗濯機の高さが100cmとすると、そこから落下した場合、フローリングにクッションマットを敷いた床であってもHIC値は1,000を超える。また、1歳未満の乳児は、頭蓋骨が薄いため、骨折や頭蓋内損傷を負うリスクはより高くなると考えられます。

(注8)「抱っこひもからの子どもの落下に注意！一生後数カ月の子どもが頭蓋内損傷などの重篤な損傷を負っています」国民生活センター（2025年3月19日公表）より、一部改変。

(注9) 頭部損傷基準値といい、重篤な損傷の起きやすい頭部に注目した損傷リスクの評価基準。欧州規格EN1177では、遊具の下の地表面の衝撃減衰力の評価値として採用されている。

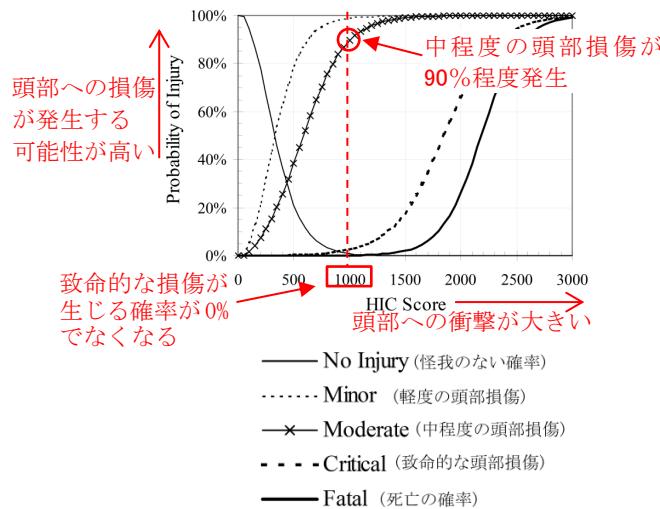
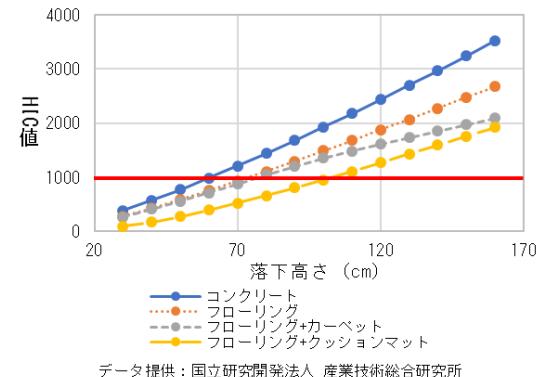


図22. HIC値に対する頭部損傷程度別の発生確率^(注10)



データ提供：国立研究開発法人 産業技術総合研究所

コンクリート：200mm の厚さのコンクリート
フローリング：ナラ鍛付複合版、コンパネ（広葉樹合板、パーチクルボードを重ねた 45mm のフローリング）
カーペット：ポリエスチル 98% の 4mm のカーペット
クッションマット：EVA 樹脂製の 12mm のマット

図23. 1歳児が落ちた場合の高さ
及び落ちた床材とHICの関係

(注10) 中野正博、松浦弘幸、玉川雅章、山中真、行正徹（2010）『頭部損傷基準値（HIC）の理論的分析』バイオ・ファジイ・システム学会誌 vol. 12 No. 2 pp. 57–63 より一部改変。

10. 消費者へのアンケート調査の集計結果

調査対象：全国の20～49歳の男女で、現在、乳児の育児をしている、または過去3年以内に乳児の育児をしていた保護者のうち、入浴・沐浴に伴い乳児が落下した、または落下しそうになった経験がある人

実施時期：2025年9月

実施方法：調査会社の登録モニターを対象としたインターネットアンケート

対象人数：515人

※割合は、小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

Q1 乳児が落下または落下しそうになった当時、あなたがその乳児（1歳未満の子）の「入浴・沐浴」に携わっている（携わっていた）頻度について、最も近いものを選んでください。

	回答数	%
ほぼ毎日	191	37.1
1週間に4～5回程度	88	17.1
1週間に2～3回程度	86	16.7
1週間に1回程度	32	6.2
月に2～3回程度	33	6.4
月に1回程度以下	49	9.5
初めて	36	7.0

Q2 落下または落下しそうになった乳児の月齢を以下から選んでください。（当時の月齢）

	回答数	%
0ヶ月	28	5.4
1ヶ月	23	4.5
2ヶ月	38	7.4
3ヶ月	61	11.8
4ヶ月	51	9.9
5ヶ月	52	10.1
6ヶ月	80	15.5
7ヶ月	48	9.3
8ヶ月	41	8.0
9ヶ月	17	3.3
10ヶ月	32	6.2
11ヶ月	44	8.5

Q3 乳児が落下または落下しそうになったのは、「入浴・沐浴」のどのタイミングでしたか。

	回答数	%
準備（浴槽、浴室の掃除など）	76	14.8
着替え（脱衣）	107	20.8
入浴・沐浴（乳児または保護者）	176	34.2
着替え（身体を拭く、着衣）	112	21.7
片付け（浴槽の蓋を閉める、浴室の掃除など）	44	8.5

Q4 乳児が落下または落下しそうになった際、その乳児を寝かせていた場所はどこですか。

	回答数	%
子ども用品（バウンサー、ベビーベッドなど）	158	30.7
洗濯機の上	76	14.8
浴槽の蓋の上	74	14.4
洗面台	20	3.9
キッチンの上	10	1.9
テーブル（リビングなど浴室や脱衣所から離れた場所）	21	4.1
ソファや椅子（リビングなど浴室や脱衣所から離れた場所）	45	8.7
大人用ベッド	23	4.5
抱っこしていた	61	11.8
その他	27	5.2

Q5 乳児が落下したまたは落下しそうになった理由について、最も当てはまるものを一つお答えください。

	回答数	%
寝返りを打った	219	42.5
ハイハイをした	57	11.1
蓋がずれた	22	4.3
滑ってしまった	166	32.2
その他	11	2.1
理由は分からない	40	7.8

Q6 「入浴、沐浴」の際、その場所（【Q4の選択内容】）に乳児を寝かせることは日常的にありましたか。最も近いものを選んでください。

※「抱っこしていた」場合は、その場所で抱っこすることが日常的にあったかについてお答えください。

	回答数	%
ほぼ毎回寝かせていた	214	41.6
たまに寝かせていた（週1回以上）	178	34.6
たまに寝かせていた（月1回以上）	77	15.0
初めて寝かせた	46	8.9

Q7 その場所（【Q4の選択内容】）に寝かせていた理由について、最も当てはまるものを一つお答えください。

※「抱っこしていた」場合は、そうしていた理由をお答えください。

	回答数	%
浴室や脱衣所が狭いため	137	26.6
その場を離れる必要があったため	116	22.5
着替えをさせやすいため	148	28.7
近くにその乳児を世話できる他の大人が居たため	33	6.4
近くの寝かせやすい場所であったため	63	12.2
その他	18	3.5

Q8 乳児が落下または落下しそうになった際、その乳児の「入浴・沐浴」を行っていた大人は何人でしたか（あなたを含む）。

	回答数	%
1人（あなたのみ）	366	71.1
2人以上	149	28.9

Q9 乳児が落下または落下しそうになった際、最もその乳児の近くにいた大人の方は、事故の様子を目撃しましたか。

	回答数	%
目撃した	335	65.0
目撃しなかった	167	32.4
分からぬ	13	2.5

Q10 乳児が落下または落下しそうになった際、最もその乳児の近くにいた大人の方は何をしていましたか。

	回答数	%
「入浴・沐浴」の(1)準備(浴槽、浴室の掃除など)	109	21.2
「入浴・沐浴」の(2)着替え(脱衣)	94	18.3
「入浴・沐浴」の(3)入浴・沐浴(乳児または保護者)	111	21.6
「入浴・沐浴」の(4)着替え(身体を拭く、着衣)	92	17.9
「入浴・沐浴」の(5)片付け(浴槽の蓋を閉める、浴室の掃除など)	37	7.2
「入浴・沐浴」以外の家事等を行っていた	66	12.8
その他	6	1.2

Q11 乳児が落下または落下しそうになった際、その乳児以外に世話をする必要のある子(乳児の兄姉など)はいましたか。

	回答数	%
「入浴・沐浴」のために近くにいた	251	48.7
「入浴・沐浴」ではないが近くにいた	140	27.2
近くにいなかった(その乳児以外に子どもはいなかった)	124	24.1

Q12 乳児が落下または落下しそうになった洗濯機のタイプをお答えください。

※Q4で「洗濯機の上」と回答した人のみ

	回答数	%
縦型洗濯機	47	61.8
ドラム式洗濯機	28	36.8
二槽式洗濯機	1	1.3
その他	0	0.0

Q13 乳児を寝かせていた際、洗濯機との間に敷いていたものがありますか。(複数回答)

※Q4で「洗濯機の上」と回答した人のみ

	回答数	%
バスタオルを敷いていた	48	42.5
子ども用マット(浴室用)を敷いていた	24	21.2
厚手のマット(布製)を敷いていた	15	13.3
衣類を敷いていた	16	14.2
ベビーバスを置いていた	5	4.4
その他	0	0.0
何も敷いていなかった	5	4.4

Q14 乳児が落下または落下しそうになった浴槽の蓋はどのタイプであったかお答えください。

※Q4で「浴槽の蓋の上」と回答した人のみ

	回答数	%
シャッタータイプ（ロール状に巻いて収納できる蓋）	28	37.8
折りたたみタイプ（細板状のものが連なった1枚の蓋）	16	21.6
組み合わせタイプ（2枚以上の板を並べる蓋）	30	40.5
その他	0	0.0

Q15 乳児を寝かせていた際、浴槽の蓋との間に敷いていたものなどはありますか。（複数回答）

※Q4で「浴槽の蓋の上」と回答した人のみ

	回答数	%
ベビーバスに寝かせていた	19	21.8
バスタオルを敷いていた	34	39.1
子ども用マット（浴室用）を敷いていた	19	21.8
衣類を敷いていた	6	6.9
その他	1	1.1
何も敷いていなかった	8	9.2